

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 24 2021年9月11日 JR東労組

アメリカ同時多発テロ事件から20年

～今、世の中はどうなっているの？～

同時多発テロとアフガニスタン紛争

2001年9月11日、アメリカの世界貿易センタービルとペンタゴン（アメリカ国防省庁）にハイジャックされた旅客機が突っ込み、多くの死傷者が出ました。この事件ではイスラム過激派のアルカイダに疑いの目がかけられ、アフガニスタンを支配していたタリバンにテロリストの譲渡を要求しましたが拒否されました。これによりアメリカ中心に対テロ戦争と称してアフガニスタン紛争が勃発しました。2001年以降、17万人以上が亡くなり、400万人以上が難民生活を送っています。昨年アメリカはタリバンと和平交渉に合意し、バイデン大統領は8月31日にアメリカ軍の撤退が完了したことを発表しました。



アフガニスタンの現状と日本政府の対応

アフガニスタンではタリバンが全土を掌握し、約20年続いた戦争に終止符が打たれました。懸念されているのは人権問題とテロ組織の活性化です。既に人権活動家やジャーナリストなどが迫害の標的にされている報道が相次いでいます。また、イスラム国をはじめとするテロ組織の温床も懸念されています。そのため多くの邦人や市民が国外への避難を試みています。日本政府も国外避難を行いました。初動が遅れたため現地職員ら500人が取り残されており、政府への非難が相次いでいます。



JR東労組の平和運動について

アフガニスタンの現状からわかるように犠牲になるのは私たち市民・労働者です。太平洋戦争時、労働組合が戦争に賛成した結果、多くの方が亡くなった苦い教訓があります。そのためJR東労組は発足当初から戦争で犠牲になるのは誰なのか？何で平和な社会が必要なのか議論を積み重ね、平和研修などを行ってきました。

アメリカ同時多発テロ発生直後、JR東労組は『テロにも戦争にも反対』を掲げ、初代委員長の前松崎明氏が「鬼の咆哮」を出版し、当時の日本政府を糾弾しました。2002年に発生した「えん罪・JR浦和電車区事件」では被疑者とされた美世志会7名が勾留中に対して「労働組合が平和運動なんて生意気だ」と言われています。世の中について学ぶ、行動することがいけないのでしょうか？果たして世界が混沌としている今こそ、世の中に目を向けていくことが必要ではないでしょうか？